

# 令和6年度入学生対象

別記様式1

## 主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔教育学部第三類（言語文化教育系）日本語教育系コース〕

プログラムの名称（和文）	日本語教育プログラム
（英文）	Teaching Japanese as a Second Language
<p>1. 取得できる学位</p> <p>本プログラムで取得できる学位は、学士（教育学）である。その取得には、本プログラムにおける授業科目について128単位（教養教育46単位、専門基礎科目18単位、専門科目30単位、専門選択科目28単位、卒業研究6単位、計128単位）以上の修得が必要である。</p>	
<p>2. 概要</p> <p>日本語教育プログラムでは、日本語教員及び学際的視野から国際社会に貢献出来る人材を養成する。</p> <p>本プログラムでは、「日本語教員養成の新たな教育内容」（文化庁）に必要なかつ十分に対応したカリキュラム、すなわち、「日本語の教育」、「日本語学習の支援」、「言語の構造」、「言語と行動」、「表現と文化」、「文化の理解」の各領域（以下、日本語教育6領域と称する）に関する基礎的な知識、能力、技能を体系的に履修し、理論・実践の両面を兼ね備えた自己研修型日本語教師を養成する。また、国際交流にかかわる企業・諸団体などで活躍する人材も養成する。</p> <p>さらに本プログラムでは、大学院に進学し高度な教育・研究者を目指す人材を養成する。</p>	
<p>3. ディプロマポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）</p> <p>日本語教育プログラムでは、日本語を外国語として教える日本語教員をはじめとし、日本語・日本文化について国際社会で説明できる知識と能力、先入観にとられない国際感覚と独創性を備え、グローバル化する社会で幅広く活躍できる人材を養成します。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士(教育学)」の学位を授与します。</p> <p>(1) 日本語教育に関連する基本的な知識を踏まえ、優れた教育実践を行うことができる。</p> <p>(2) 日本語教育の各領域及び関連諸領域を理解し、研究を専門的かつ学際的に発展させることができる。</p> <p>(3) 国際的な視野を持つとともに、それを学際的な思考につなげることができる。</p>	
<p>4. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）</p> <p>日本語教育プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施します。</p> <p>1年次には、教養教育科目や外国語科目を履修し、専門教育の基盤づくりを行うとともに国際社会に貢献するための広い視野と能力を培います。また、専門基礎科目である「日本語教育学基礎論」等を履修し、日本語教育に関する基礎的な知識を修得します。</p> <p>2年次には、教養教育科目を引き続き履修して専門教育の基盤づくりを行うとともに、「日本語教授法研究」、「日本語教育課程論」、「日本語の文法」、「言語の比較と対照研究」、「比較日本文化学」、「異文化接触と文化理解」等の専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は＜日本語の教育＞、＜日本語学習の支援＞、＜言語の構造＞、＜言語と行動＞、＜表現と文化＞、＜文化の理解＞の6分野からなっており、そのうちの4分野以上にわたって履修することで、日本語教育に関する基礎的な知識を広く修得するとともに分野間の理解を深めます。</p> <p>3年次には、「日本語技能指導論」、「語用論」、「多文化間教育論」等の専門科目を主として履修し、専門的な知識</p>	

を修得します。また、国内(「日本語教育実習研究」)や海外(「日本語教育海外実習研究」)の日本語教育機関において実習を行うことで教育実践力と省察力を高めます。

4年次においては、卒業論文で、本プログラムを通して修得した専門的な知識、技能、能力を活用して独自のテーマに取り組むことで、自ら問題を発見して解決する力を培います。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

#### 5. 開始時期・受入条件

本プログラムの開始時期は、1年次である。日本語教育系コースに入学することが受入条件である。プログラム選択のための既修得要件は、特にない。

#### 6. 取得可能な資格

日本語教育能力検定試験合格と同等の知識を有していると認められる「日本語教育能力検定試験合格の認定」を得ることが可能である。教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより、高等学校教諭一種免許(国語)が取得可能である。また、特定プログラムを追加して修得することで、学芸員、学校図書館司書教諭などの資格も取得可能である。

#### 7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

#### 8. 学習の成果

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

#### 9. 卒業論文(卒業研究)(位置づけ、配属方法、時期等)

##### ○目的

卒業論文は、本プログラムを通して身につけた、「知識・理解」、「能力・技能」、「実践的な力」、「総合的な力」を活用し、日本語教育6領域に関する独自の課題を設けて、研究成果をまとめることを目的にする。

##### ○概要

日本語教育6領域から1研究領域を選択し、卒業論文指導教員の指導の下、各自が選択する研究テーマに即して研究を進め、4年次10月の所定期日に研究テーマを、1月末には卒業論文を提出する。

##### ○配属時期と配属方法

3年次後期中に、卒業論文指導教員を決め、主要な研究領域を決定する。4年次に日本語教育学特定研究Ⅰ・Ⅱを履修し、卒業論文作成を行う。

#### 10. 責任体制

本プログラムは、主として教育学部の日本語教育系コースを担当するスタッフにより遂行される。遂行上の責任は、プログラム責任者(日本語教育系コース主任)にある。計画・実施・評価・改善は、本プログラム教員会が行う。なお、プログラム外からの評価・改善は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

## 教養教育科目履修基準表

### 第三類 日本語教育系コース（日本語教育プログラム）

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)																
						1年次		2年次		3年次		4年次										
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ									
教養教育科目	平和科目	2		2	選択必修	○																
	大学教育入門	2	大学教育入門	2	必修	○																
	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○																
	展開ゼミ	0		1																		
	領域科目	人文社会科学系科目群	4	(注4)	1又は2	選択必修	○	○	○	○												
		自然科学系科目群	4	(注4)	1又は2	選択必修	○	○	○	○												
	外国語科目 (注2)	英語 (注3)	コミュニケーション基礎	2	コミュニケーション基礎 I	1	必修	○														
					コミュニケーション基礎 II	1			○													
		コミュニケーション I	4	コミュニケーション I A	1	選択必修	○															
				コミュニケーション I B	1		○															
				コミュニケーション II A	1			○														
				コミュニケーション II B	1			○														
		-		(0)	上記4科目から2科目以上																	
		-		(0)	Advanced English for Communication	1	自由選択	○	○													
		初修外国語 (注5)		4	ベーシック外国語 I	1	選択必修	○														
					ベーシック外国語 II	1		○														
	ベーシック外国語 III				1			○														
	ベーシック外国語 IV				1			○														
	4			インテンシブ外国語 I A	1	必修 (注6)	○															
				インテンシブ外国語 I B	1		○															
				インテンシブ外国語 II A	1			○														
				インテンシブ外国語 II B	1			○														
	(0)			海外語学演習	1	自由選択																
情報・データサイエンス科目	4	情報・データ科学入門	2	必修	○																	
		(注7)	2	選択必修	○	○																
健康スポーツ科目	2		1又は2	選択必修	○	○																
社会連携科目	(0)		1又は2	自由選択	○	○																
基盤科目	(0)		1～3	自由選択	○	○	○	○														
自由選択科目	12	(注8)	1～3	選択必修	○	○	○	○														
計	46																					

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：外国語技能検定試験，語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の外国語科目に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：・自学自習による「オンライン英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業科目の単位数は、英語の卒業要件単位に算入することができる。

・要修得単位数を超えて修得した領域科目及び社会連携科目のうち、使用言語が「英語」の授業科目の単位数は、英語の卒業要件単位に算入することができる。

注4：・専門分野以外の分野から履修することが望ましい。

・教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。

注5：ドイツ語，フランス語，スペイン語，中国語，韓国語のうちから1言語選択すること。

注6：ベーシック外国語で選択した言語と同一言語の「インテンシブ外国語」を1年次に選択・履修し，4単位を修得すること。4単位に満たなかった場合は，2年次以降に「インテンシブ外国語」を再履修し，単位を修得すること。なお，「インテンシブ外国語」はベーシック外国語と連動しており，「インテンシブ外国語」のみを再履修することはできない。再履修の際は，登録方法に注意すること。

注7：「コンピュータ・プログラミング」，「知能とコンピュータ」，「データサイエンス基礎」，「ゼロからはじめるプログラミング」，「教育のためのデータサイエンス」を対象とする。

注8：外国語科目，領域科目，情報・データサイエンス科目，社会連携科目，基盤科目（6単位限度）を対象とする。

## 学部履修基準

### 第三類（言語文化教育系）

#### ○ 日本語教育系コース（日本語教育プログラム）

科目区分等			要修得単位数		
教 養 教 育	平和科目		2	46	
	大学教育基礎科目	大学教育入門	2		
		教養ゼミ	2		
		展開ゼミ	0		
	共通科目	領域科目	人文社会科学系科目群		4
			自然科学系科目群		4
		外国語科目	英語		6
			初修外国語		8
		情報・データサイエンス科目	4		
		健康スポーツ科目	2		
	社会連携科目	(0)			
基盤科目		(0)			
自由選択科目		12			
専門教育	専門基礎科目		18	82	
	専門科目		30		
	専門選択科目		28		
	卒業研究		6		
合 計			128		

## 専門教育科目履修基準

### 第三類 日本語教育系コース（日本語教育プログラム）

履修内容		要修得単位数		開設
専門基礎科目	必修科目	4	48	日本語教育系コース
	日本語の教育	14		
	日本語学習の支援			
	言語の構造			
	言語と行動			
	表現と文化			
	文化の理解			
専門科目	30			
専門選択科目		28		教育学部ほか
卒業研究		6		日本語教育系コース

#### <履修上の注意>

- 「必修科目」以外の専門基礎科目の14単位は、「日本語の教育」、「日本語学習の支援」、「言語の構造」、「言語と行動」、「表現と文化」、「文化の理解」の6分野の中から4分野以上にわたって履修すること。
- 「必修科目」以外の専門基礎科目の修得単位数が14単位を超えた場合は、超過した単位数を専門科目の要修得単位数30単位の一部として認める。
- 『専門選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、28単位まで認める。

第三類 日本語教育系コース（日本語教育プログラム）

開設単位数欄の○印数字は必修  
履修 Semester 欄の○印は標準履修 Semester

区分	授業科目	開単 位 設 数	履 修 セ メ ス タ ー								免 許 法 該 当 科 目	備 考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
専 門 基 礎 科 目	必修科目	日本語教育学基礎論	②	○									
		日本語教育学特定研究Ⅰ	①							○			
		日本語教育学特定研究Ⅱ	①									○	
	日本語の教育	日本語教育課程論	2			○							
		日本語教授法研究	2			○							
		日本語教育と文法	2				○					国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	
		Second and Foreign Language Teaching Method	2				○						
	日本語学習の支援	日本語の音声と発音	2				○					国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	
		年少者日本語教育	2				○						
		第二言語学習の心理	2				○						
	言語の構造	日本語の構造	2		○							国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	
		日本語の文法	2			○						〃	
		言語学の理論と方法	2	○									
	言語と行動	社会言語学	2				○						
		日本語の習得と指導	2				○						
		言語心理学	2					○					
	表現と文化	日本語の表現と論理	2			○						国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	
		日本文学と文化	2				○					国文学（国文学史を含む。）	
		日本語の語彙と意味	2			○						国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	
	文化の理解	比較日本文学	2			○							
		日本文化研究	2				○						
異文化接触と文化学習		2			○								
専 門 科 目	日本語文字・表記研究	2				○					国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
	日本語技能指導論	2					○						
	日本語教育評価法	2				○							
	地域日本語教育	2					○						
	日本語文法演習	2					○				国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
	言語の比較と対照研究	2			○								
	対照言語学演習	2							○				



日本語教育プログラムにおける学習の成果  
評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を得る。	日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる。	日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる。	日本語教育の理論と方法に関する基礎的な知識を身につけることができる。
	(2) 日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得る。	日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる。	日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる。	日本語・日本文化の教育に関する基本的な理解を得ることができる。
	(3) 日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得る。	日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる。	日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる。	日本語教育の現状と課題に関する基本的な理解を得ることができる。
	(4) 日本語教育6領域に関する基礎的な知識を得る。	日本語教育6領域に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる。	日本語教育6領域に関する基礎的な知識を身につけ、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる。	日本語教育6領域に関する基礎的な知識を身につけることができる。
能力・技能	(1) 日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分析を通じて、理解を深める。	日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分析を通じて、理解を深め、それに基づき、問題点や課題を指摘し、解決への新たな展望を得ることができる。	日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分析を通じて、理解を深め、それに基づき、問題点や課題を指摘することができる。	日本語教育の理論と方法について、調査・実験・資料分析を通じて、理解を深めることができる。
	(2) 日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究する。	日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究し、顕著な成果を得ることができる。	日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究し、成果を得ることができる。	日本語・日本文化の教育について文献・資料・情報に基づき、個別テーマを設定して研究することができる。
	(3) 日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を収集・整理し、問題を明確化する。	日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を適切に収集・整理し、問題を明確化し、解決への新たな解決策を提示することができる。	日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を適切に収集・整理し、複数の問題を明確化することができる。	日本語教育の現状と課題について文献・資料・情報を収集・整理し、問題を明確化することができる。
	(4) 日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究する。	日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究し、顕著な成果を得ることができる。	日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究し、成果を得ることができる。	日本語教育6領域に関して個別的・専門的に研究することができる。
実践的な力	(1) 日本語教育の実践に向けて、その方法を構想・立案する。	日本語教育の実践に向けて、その方法を具体的かつ適切に構想・立案することができる。	日本語教育の実践に向けて、その方法を具体的に構想・立案することができる。	日本語教育の実践に向けて、その方法を構想・立案することができる。
	(2) 日本語教育の実践に向けて、その内容を分析・開発する。	日本語教育の実践に向けて、その内容を批判的に分析し、より優れたものを開発することができる。	日本語教育の実践に向けて、その内容を総合的に分析・開発することができる。	日本語教育の実践に向けて、その内容を分析・開発することができる。
	(3) 日本語教育の実践に向けて、指導案を構想する。	日本語教育の実践に向けて、効果的で実践可能な指導案を構想することができる。	日本語教育の実践に向けて、実践可能な指導案を構想することができる。	日本語教育の実践に向けて、指導案を構想することができる。
	(4) 日本語教育の実践に向けて、新たな研究を計画し、推進する。	日本語教育の実践に向けて、新たな研究を具体的に計画し、効率的に推進することができる。	日本語教育の実践に向けて、新たな研究を具体的に計画し、推進することができる。	日本語教育の実践に向けて、新たな研究を計画し、推進することができる。
総合的な力	(1) 個人、あるいはグループで研究・活動を立案し、効果的に実現する。	個人、あるいはグループで研究・活動を独創的に立案し、効果的に実現することができる。	個人、あるいはグループで研究・活動を適切に立案し、効果的に実現することができる。	個人、あるいはグループで研究・活動を立案し、効果的に実現することができる。
	(2) 個々の研究や教育実践の成果をレポートや論文にまとめ、プレゼンテーションをする。	個々の研究や教育実践の成果を優れたレポートや論文にまとめ、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。	個々の研究や教育実践の成果を優れたレポートや論文にまとめ、プレゼンテーションをすることができる。	個々の研究や教育実践の成果をレポートや論文にまとめ、プレゼンテーションをすることができる。
	(3) コンピュータなどITを用いて、基礎的な情報処理や教材開発をする。	コンピュータなどITを効果的に用いて、基礎的・応用的な情報処理や教材開発をすることができる。	コンピュータなどITを効果的に用いて、基礎的な情報処理や教材開発をすることができる。	コンピュータなどITを用いて、基礎的な情報処理や教材開発をすることができる。
	(4) 日本語教育6領域の各領域を相互に関連づけ、日本語教育の諸問題を改善・創造する。	日本語教育6領域の各領域を相互に有機的に関連づけ、体系的な視点から、日本語教育の諸問題を改善・創造することができる。	日本語教育6領域の各領域を相互に有機的に関連づけ、日本語教育の諸問題を改善・創造することができる。	日本語教育6領域の各領域を相互に関連づけ、日本語教育の諸問題を改善・創造することができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、専門教育の基盤づくりを担い、教育学、言語学、文化学、心理学を含む人文科学・社会科学に関する基礎的な知識を修得します。加えて、外国語運用能力を向上させ、現代の国際社会や教育の要請に応える総合的な能力や資質を養います。





科目区分	授業科目名	単位数	必修・選択・選択	開設期	評価項目																				科目中の評価項目							
					知識・理解				能力・技能				実践的な力				総合的な力															
					(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)												
専門教育科目	社会文化学	2	選択	5						100	1																					
専門教育科目	多文化間教育論	2	選択	5						100	1																					
専門教育科目	日本の近現代文学	2	選択	5										100	1																	
専門教育科目	比較文化学演習	2	選択	6																			100	1								
専門教育科目	異文化間教育学演習	2	選択	6																			100	1								
専門教育科目	日本語教育海外実習研究	2	選択	6																			100	1								
専門教育科目	日本語教育実習研究	2	選択	5																			100	1								
専門教育科目	卒業論文	6	必修	集中																								50	1	50	1	100



学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
実践的な力	(1)日本語教育の実践に向けて、その方法を構想・立案する。	情報・データサイエンス科目(○)							
	(2)日本語教育の実践に向けて、その内容を分析・開発する。				日本語の音声と発音(○)				
	(3)日本語教育の実践に向けて、指導案を構想する。					日本語技能指導論(△)			
	(4)日本語教育の実践に向けて、新たな研究を計画し、推進する。			日本語教授法研究(○)					
総合的な力	(1)個人、あるいはグループで研究・活動を立案し、効果的に実現する。	教養ゼミ(◎) 大学教育入門(◎)					第二言語習得論演習(△)	日本語教育学 特定研究Ⅰ(◎)	日本語教育学 特定研究Ⅱ(◎)
	(2)個々の研究や教育実践の成果をレポートや論文にまとめ、プレゼンテーションをする。	教養ゼミ(◎) 大学教育入門(◎)					比較文化学演習△ 異文化間教育学演習△		日本語教育学 特定研究Ⅱ(◎)
	(3)コンピュータなどITを用いて、基礎的な情報処理や教材開発をする。	情報・データサイエンス科目(○)					日本語教育実習研究(△) 日本語教育 海外実習研究(△)	日本語教育学 特定研究Ⅰ(◎)	卒業論文(◎)
	(4)日本語教育6領域の各領域を相互に関連づけ、日本語教育の諸問題を改善・創造する。	教養ゼミ(◎) 大学教育入門(◎)			日本語語彙論・ 意味論演習(△)	日本語文法演習(△)	対照言語学演習(△) 表現法演習(△)	卒業論文(◎)	卒業論文(◎)

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

※ターム科目の区別は、科目名の前に記載する。

第1ターム:1T 第2ターム:2T 第3ターム:3T 第4ターム:4T  
(例)第1ターム開講の科目 → (1T)コミュニケーション1

日本語教育プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
永田 良太	教授	6866	教育学部棟 A107	ryota@
仁科 陽江	教授	6873	教育学部棟 A310	ynishina@
柳澤 浩哉	教授	6869	教育学部棟 A308	yanagisa@
渡部 倫子	教授	6865	教育学部棟 A309	tomokow@
奥村 安寿子	准教授	6874	教育学部棟 A204	y-okumura@
小口 悠紀子	准教授	6870	教育学部棟 A203	koguchiy@
中山 亜紀子	准教授	6878	教育学部棟 A110	anakayam@
西村 大志	准教授	6874	教育学部棟 A205	hnishi@

※E-mailアドレスは「@」のあとに、「hiroshima-u.ac.jp」を付けて送信してください。

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））